

高等学校におけるアクティブラーニングの視点に立った
参加型授業に関する実態調査 2016

第二次報告書

木村 充, 小山田 建太, 伊勢坊 綾, 田中 智輝, 村松 灯,
山辺 恵理子, 中原 淳

2017年4月5日

東京大学 大学総合教育研究センター 中原淳研究室
日本教育研究イノベーションセンター

マナビラボ・プロジェクト宣言

東京大学 大学総合教育研究センター 中原淳研究室と日本教育研究イノベーションセンターは、日本全国の高校で授業をなさっている先生方が、その授業をさらに「インタラクティブ」に、さらに「知的にわくわく」したものにすのお手伝いをさせていただきたいと願ひ、「マナビラボ」プロジェクトを立ち上げました。

マナビラボ・プロジェクトでは、主に、下記の3つの活動にラボメンバー一同で従事しています。

1. 日本全国の高校のアクティブラーニングの実態を「見える化」するべく、モニタリング調査を行わせていただくこと
2. アクティブラーニングの視点に立った高校の先進的な授業実践事例を収集し、多くの人々に知っていただく機会をつくりだすこと
3. それらを Web、書籍、報告書などのメディアを用いて世に広く問い、アクティブ・ラーナーの育成に貢献すること

なお、マナビラボ立ち上げに際して、私たちは、下記の5つの信念を持っています。この5つの信念は、私たちが私たちがたる由縁であり、「マナビラボ・プロジェクト宣言」と形容してもよいものです。

本報告をしたためにあたり、この宣言に立ち返ることをもって、私たちは自らのアイデンティティを確認します。

私たちの1つ目の信念は、アクティブラーニングを「新しいもの」とは「みなさない」という信念です。

活動を始めてからというもの、高校の先生方にも様々ヒアリングなどもさせていただきましたが、強く感じたのはアクティブラーニングという言葉に対する強い拒否感、あるいはやらされ感でした。多くの先生方が思っているのは「確かに新しいけれど、今までだってあったよね」というものです。

マナビラボでは、多くの心ある先生方がお取り組みになってきたアクティブラーニング的な授業を「再発見」し、多くの人々により知って頂くお手伝いをさせていただこうと思っております。

私たちは、アクティブラーニングを「新しいもの」とはみなしません。それは心ある教員の方々が、これまでも追求してきたものであり、かつ、今後の社会を生き抜く人材にとって重要な学習機会であると考えます。

2つ目の信念は、「私たちはパブリックをめざす」というものです。

昨今、巷では、アクティブラーニングが大きな流行とも言える状況になっているわけですが、それを「商業化」のチャンスとみなす人も少なくありません。海外で仕入れた「洋風の手法」を日本に適用し、それをもって現場を塗り替えることを企図するものもあります。

あるいは、これまで特定の手法で教育運動を主導してきた教育業界の運動主が、自らの運動に「アクティブラーニング」という新たなコーティングを施して、自分の教育運動を普及させたり、再活性化さ

せたりしようとしているのを見て取れます。アクティブラーニングで「一旗揚げよう」という人もいないわけではありません。

私たちは、プロジェクトメンバーの誰一人として、アクティブラーニングの「専門の研究者」ではありません。マナビラボ・プロジェクトのメンバーは、人材開発研究をしている人、哲学研究をしている人など、多岐にわたります。

それぞれの立場から、新たな学びが高校に必要だと感じ、自らの研究のかたわら、この仕事をしています。私たちは、よりパブリックな立場から、アクティブラーニングを元気にするお手伝いをしたいと思います。

私たちは、これからを生き抜く子どもたち、そして、そうした子どもたちと日々相對する先生方のために、パブリックな活動に従事します。

3つ目の信念は、これからの学びを考えるときの姿勢です。

これからの学びのあり方を議論する際には、教育機関だけを取り出して考えるのではなく、社会と教育機関とのつながりを考えて取り組むべきであると、私たちは信じています。

例えば、高校を変えていかなければならないというのは、大学入試、その先の大学での教育、さらにその先の社会と、トータルに考えていく必要があります。そして、そこでの移行を円滑に進めていくということを目的にする必要があります。

つまり、高校をひとりぼっちにしないということです。

私たちは、志ある高校の授業を、社会につなぐお手伝いをさせていただきます。社会の心ある人々は、教育現場で日々格闘なさっている先生方と、適切なかたちで出会い、願わくば協力をしたいと思っています。これまで、多くの教育運動は「教育の世界」の独自性を主張するあまり、「教育」と「教育以外」の世界の「境界」を強固にし、固定化してきました。私たちは、そうした視点を一切とりません。教育のあり方を、社会や仕事のあり方と接続して考えます。

4つ目の信念は、私たちは「見える化」にこだわるということです。

例えば、教育制度の決め方がいわゆる審議会・協議会方式になっていることに代表されるように、教育改革談義・議論というのは、どうしても印象論・理念論で進んでしまっています。私は、今あるものが「見える化」していないのに、それを適切に「変えること」はできないと思います。

「イメージ」できないものは「マネージ」できません。またイメージできないものは「達成」すらできないのです。なぜなら、「達成したかどうか」もわからないからです。

生産的な議論を起こしていくのは、数字であり事例です。私たちは、アクティブラーニングにまつわる数字や事例を「見える化」するお手伝いをします。

私たちは、印象論や理念論で教育や学習を語りません。しっかりとしたエビデンスに基づき、物事を語る姿勢を持ちます。

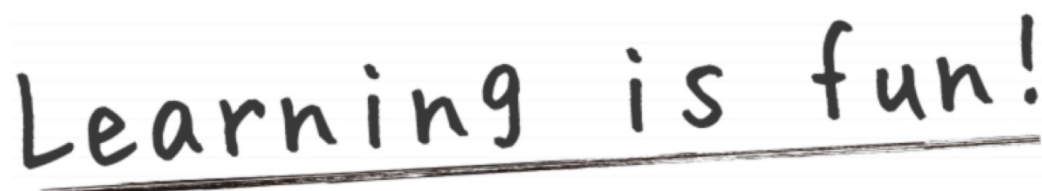
最後の5つ目は、私たちは「対話の素材」を現場の先生方に提供したいということです。

「現場を変えうる力」を持っているのは、私たちではありません。現場を本当に変えうる力を持っていらっしゃるの、日々現場に立っておられる先生方の献身的な努力です。しかし、これまでの教育運動は、現場で日々相對している人々を「エンパワーメント」するどころか、意欲を減退する方向で行われてきました。

私たちは「無力」です。

私たちに為しえるのは、現場の改善や日々の実践に邁進しておられる先生方が、日々の実践を振り返ったり、新たな物事を構想していくときに必要になる対話の素材を提供することです。

本報告書の発表、および本プロジェクトをすすめるにあたり、以上の事柄を、私たちは宣言いたします。



Learning is fun!

マナビラボ・プロジェクトを代表して
中原 淳（東京大学・准教授）

はじめに

本報告書シリーズは、東京大学 大学総合教育研究センター 中原淳研究室 と 一般財団法人日本教育研究イノベーションセンター が、2016年7月から9月にかけて共同研究として実施した「高等学校におけるアクティブラーニングの視点に立った参加型授業に関する実態調査2016」(以下、本調査)の調査概要および集計結果をまとめたものである。本調査では、アクティブラーニングと同義で「参加型学習」という言葉を用いている。

本研究プロジェクトでは、高等学校におけるアクティブラーニングの現状と変化、その要因を質問紙調査の方法で把握することを目的に、「高等学校におけるアクティブラーニングの視点に立った参加型授業に関する実態調査」という縦断調査を実施している。本調査は、その一連の調査の2年目に当たるものである。1年目の調査は、普通科またはそれに準ずる学科、および総合学科を設置する全国の高等学校3,893校を対象に実施し、62.0%に当たる2,414校から回答をいただいた。2年目の調査は、1年目の調査回答校を対象に実施し、2015年度からの変化とその要因の把握を試みる。

本報告書は、2016年度の調査結果の一部を速報値としてとりまとめたものである。まだ分析の途中ではあるが、一部であってもできる限り早く結果を報告することを重視した。分析が進み次第、順次結果を公開する予定である。最終的な報告と本速報値がわずかにずれる可能性があり、その場合は最終報告書のデータを利用いただきたい。

本調査が可能となったのは、ご多忙な中で、本調査の趣旨を理解し、回答をお寄せくださった全国の高等学校の先生方の熱意とご協力による。この場をかりて、心から厚く感謝を申し上げたい。また、このたびの調査の趣旨をご理解いただき、さまざまな支援をいただいた一般財団法人日本教育研究イノベーションセンターの皆様にも心より感謝する。本当にありがとうございました。

多くの方々のご理解とご協力の賜物である本調査の結果が、今後の高等学校におけるアクティブラーニングの在り方を考える際の基礎資料として各方面で活用され、高等学校の学びの活性化や改善に寄与することを願う。

2017年4月5日

研究プロジェクトメンバー全員を代表して

東京大学大学総合教育研究センター 中原淳研究室
准教授 中原淳 (研究代表者)

第二次報告書について

本報告書は、「高等学校におけるアクティブラーニングの視点に立った参加型授業に関する実態調査2016」（以下、本調査）の調査概要および集計結果を暫定的にまとめたものである。

第一次報告書は、2016年時点での全国の高等学校のアクティブラーニングの視点に立った参加型授業の実施状況の変化とその要因を把握するため、高等学校における参加型授業の教科別の実施率、参加型授業実施のねらいや悩みの変化、アクティブラーニング推進に向けた教科主任の働きかけなどについて、教科主任調査のデータを概観したものであった。

第二次報告書は、各教科（国語、地歴・公民、数学、理科、外国語）で実施されている参加型授業の具体的な内容を把握することを主題として、教員調査のデータを分析したものである。

最終的な報告は、2017年末には最終報告書としてまとめる予定である。最終的な報告と本速報値がわずかにずれる可能性があるが、最終的な値については最終報告書のデータを利用いただきたい。

第一次報告書は、特設サイト「未来を育てるマナビラボ：ひとはもともとアクティブ・ラーナー」内のページ（URL: <http://manabilab.jp/wp/wp-content/uploads/2017/01/1streport.pdf>）から閲覧可能である。こちらも合わせてご覧いただきたい。

調査結果の掲載・引用について

本報告書に掲載されている図版や調査結果の掲載や引用をご希望される場合には、ご自由に引用・転載していただいて構いません。また、引用・転載にあたっては、事前にご連絡をいただく必要はありませんが、必ず以下の【出典記載例】に則って、出典をご明記ください。

【出典記載例】

木村充, 伊勢坊綾, 小山田建太, 田中智輝, 村松灯, 山辺恵理子, 中原淳 (2017). 東京大学－日本教育研究イノベーションセンター共同調査研究 高等学校におけるアクティブラーニングの視点に立った参加型授業に関する実態調査 2016: 第二次報告書. <http://manabilab.jp/wp/wp-content/uploads/2017/04/2ndreport.pdf>

目 次

マナビラボ・プロジェクト宣言	1
はじめに	4
第二次報告書について	5
調査結果の掲載・引用について	5
1. 調査の概要	7
1. 調査の概要	7
1.1. 調査の目的	7
1.2. 調査の方法	7
1.3. 調査時期	7
1.4. 調査対象	7
1.5. 回収数	7
1.6. 調査項目	8
2. 調査の目的	8
3. 調査の実施主体	9
4. 調査の対象	9
5. 調査の方法	9
6. 調査票の構成と内容	9
7. 回収率	10
2. 調査の結果	13
1. 教員調査の結果	13
1.1. 実施された科目	13
1.2. 実施された学年	15
1.3. 扱った分野・テーマなど	15
1.4. 学習活動の種類	20
1.5. 参加型授業を実施したタイミング	27
1.6. 参加型授業を実施した頻度	28
1.7. 参加型授業で使用した教材	29
1.8. 参加型授業の効果	32
1.9. 学習成果を判断する際の根拠	39

1. 調査の概要

本章では、調査の目的や方法など、調査の概要について説明する。

1. 調査の概要

1.1. 調査の目的

高等学校におけるアクティブラーニングの視点に立った参加型授業の実態の把握

1.2. 調査の方法

郵送法による質問紙調査

1.3. 調査時期

2016年7月～9月

1.4. 調査対象

教科主任調査：全国の高等学校^(注1)の各教科（国語、地歴・公民、数学、理科、外国語）の教科主任

教員調査：全国の高等学校でアクティブラーニングの視点に立った参加型授業を実施している教員

(注1) 普通科またはそれに準ずる学科、および総合学科を設置する全国の高等学校のうち、「高等学校におけるアクティブラーニングの視点に立った参加型授業に関する実態調査2015」に回答した学校（計2,414校）。

1.5. 回収数

回答学校数 1,794校 (対象校数 2,414校、回収率 74.3%)

・教科主任調査	8,680票 ^(注4)	(配布数 12,070票 ^(注2) 、回収率 71.9%)
・国語	1,749票	(配布数 2,414票、回収率 72.5%)
・地歴・公民	1,718票	(配布数 2,414票、回収率 71.2%)
・数学	1,751票	(配布数 2,414票、回収率 72.5%)
・理科	1,727票	(配布数 2,414票、回収率 71.5%)
・外国語	1,735票	(配布数 2,414票、回収率 71.9%)
・教員調査	7,328票	(配布数 12,070票 ^(注3) 、回収率 60.7%)
・国語	1,575票	(配布数 2,414票、回収率 65.2%)
・地歴・公民	1,456票	(配布数 2,414票、回収率 60.3%)
・数学	1,315票	(配布数 2,414票、回収率 54.5%)
・理科	1,442票	(配布数 2,414票、回収率 59.7%)
・外国語	1,540票	(配布数 2,414票、回収率 63.8%)

(注2) 各学校に5部（国語、地歴・公民、数学、理科、外国語）配布。各教科の教科主任が回答。

(注3) 各学校に5部（国語、地歴・公民、数学、理科、外国語）配布。各教科でアクティブラーニングの視点に立った参加型授業に積極的に取り組んでいる教員1名が回答。

(注4) 同一の教科から複数の回答があった場合、回収数の集計では1票と扱った。ただし、「2. 調査の結果」以降の分析ではすべての回答を採用し、有効回答と扱った。そのため、回収数と有効回答数が異なる場合がある。

1.6. 調査項目

・教科主任調査

教科での参加型学習の実施状況、科目別参加型学習の実施率、教科主任としての働きかけ、昨年からの効果の変化、昨年からの悩みの変化 など

・教員調査

参加型授業を実施した科目、学年、分野・テーマ、学習活動、授業の流れ、振り返りの活動、タイミング、頻度、使用教材、効果、効果判断の根拠 など

2. 調査の目的

「高等学校におけるアクティブラーニングの視点に立った参加型授業に関する実態調査」は、1) 現在、未曾有のスピードで進行する大学改革—とりわけ円滑な高大接続を実現するための基礎資料として、現在の高校の教育実態を「大学」が学ぶこと、2) 学習指導要領の改訂をにらんで、現在進んでいる高等学校におけるアクティブラーニングの現状を可視化し、高等学校の関係者の方々に利用していただくことを目的に、東京大学 大学総合教育研究センター 中原淳研究室 と 日本教育研究イノベーションセンター が共同で実施する縦断調査である。

大学改革の議論において、ここ数年、高大接続の重要性が指摘されている。変化の激しい現代社会を「生き抜く」若手層を育成するために、それぞれ個別に存在していた「高校の教育」と「大学の教育」を円滑に接続し、かつ総合的な思考力を見抜く大学入学者選抜を実現することが、社会的に要請されている。本調査は、こうした社会的背景に鑑み、高校の教育のリアルな実態を明らかにし、そこから大学が多くのことを学ぶために企図された。

一方、2014年11月に発表された中央教育審議会諮問「初等中等教育における教育課程の基準等の在り方について」をきっかけに、全国の高等学校においてアクティブラーニングの視点を取り入れた授業への取り組みが普及しはじめている。この諮問は、新しい時代にふさわしい学習指導要領等の在り方について、育成すべき資質・能力をふまえた教育目標・内容の改善、アクティブラーニングの充実、学習評価の改善などを掲げたものである。新しい学習指導要領では、課題解決能力や主体的学習態度が重視されており、このような知識・技能、態度を身につけるためには、一方的に教師の講義を聴くだけの授業ではなく、生徒による議論や学び合い、発表などを組み込むなど、教育内容・方法の改善が不可欠である。一方、高校の教育の実態に関しては、それを正確に把握する手段がこれまで存在していなかった。本調査は、こうした社会的背景を後景とし、高校の教育改革、大学の教育改革、ひいては大学の選抜手法の改革に資する基礎的資料として、社会の多くの関係者に利用されることを願い、実施されたものである。

1年目となる2015年度の調査では、普通科またはそれに準ずる学科、および総合学科を設置する全国の高等学校3,893校を対象に実施し、62.0%に当たる2,414校から回答をいただき、2015年度における全国の高等学校におけるアクティブラーニングの実態把握を行った。2年目となる2016年度の調査では、1) 各教科におけるアクティブラーニングの実態をより詳細に把握すること、2) 2015年から1年間の参加型学習の実践状況の変化を把握すること、3) 参加型授業を促進する組織的要因を把握すること、を主な目的としている。より詳細には、1) 各高等学校の各教科において、アクティブラーニングの視点に立った参加型授業がどのように実施されているかを詳細に把握すること、2) 各高等学校の各教科において、2015年から2016年にかけてアクティブラーニングの視点に立った参加型授業の実践状況にどのような変化があり、かつどのような課題が生じているかを把握すること、3) 各高等学校にお

いて、各教科主任の教員が、アクティブラーニングの促進をめざして教科の中でどのような行動をとり、かつ管理職に対してどのような上方影響力を行使しているかを把握すること、4) 各高等学校において、アクティブラーニングを促進する組織文化的要因を把握すること、を目的に、調査票の設計等を行った。

3. 調査の実施主体

本調査の実施主体は、東京大学 大学総合教育研究センター 中原淳研究室 と 日本教育研究イノベーションセンター である。調査の方法、調査票の内容の検討などは、両者の協議によって行われた。

4. 調査の対象

本調査の対象は、「高等学校におけるアクティブラーニングの視点に立った参加型授業に関する実態調査2015」に回答した全国の高等学校（計2,414校）である。「高等学校におけるアクティブラーニングの視点に立った参加型授業に関する実態調査2015」の調査対象は、調査票配布時（2015年7月）に普通科またはそれに準ずる学科、および総合学科を設置する全国の高等学校（計3,893校）であった。

本調査では、一方的な知識伝達型の講義を聴くだけという受動的な学習を乗り越える意味でのアクティブラーニングに焦点を当てるため、実技や演習等の授業に力を入れてきたと考えられる実業学校は、対象から除外した。また、同様の理由で、6教科（国語、地歴・公民、数学、理科、外国語）以外の保健体育・芸術・家庭等の教科は対象から除外した。

5. 調査の方法

以上の手続きによって選定された調査対象の高等学校に対して、調査票を郵送した。本調査では、教科ごとの参加型授業への取り組みの実態、参加型授業に取り組んでいる教員のより具体的な取り組みの実態という2つの視点から実態を把握するため、教科ごとの調査票の中に、教科主任調査と教員調査の2種類の調査を織り込んだ。2016年7月1日に、調査票5部に加え、依頼状、返送用封筒を同封し、各高等学校に発送した。

回収作業は、2016年7月1日の調査開始から、調査票回収の最終締切り期限となった2016年9月16日まで継続された。

6. 調査票の構成と内容

調査票の基本的構成と内容は以下の通りである。

○教科主任調査：

教科主任着任時期、教科での現在の参加型学習の実施状況、科目別参加型学習の実施率、教科での今後の参加型学習の実施状況、教科主任としての働きかけ、教科主任としての管理職への働きかけ、効果の変化、悩みの変化、組織文化、校内・校外研修、ICT導入・活用状況 など

○教員調査：

参加型授業を実施した科目、学年、分野・テーマ、学習活動、授業の流れ、振り返りの活動、タイミング、頻度、使用教材、効果、効果判断の根拠 など

高等学校において広まりつつある「アクティブラーニング」という語は、人によって様々なイメージで捉えられていたり、特定の「授業の型」のようなイメージを持たれていたりすることが想定される。本調査では、そのイメージによって回答が偏ることを避けるため、各学校に調査を依頼するに当たり、調査票中ではアクティブラーニングという語の代わりに「参加型学習」という語を用いた。また、アクティブラーニングまたは参加型学習という語について、現在のところ統一された定義があるわけではなく、回答者によって思い浮かべるものが異なると考えられるため、本調査では参加型学習の定義として図1のような定義を示した。

本報告書では、このような参加型学習の視点を取り入れた授業のことを「アクティブラーニングの視点に立った参加型授業」または単に「参加型授業」という語を用いて表現することとした。従って、本報告書で「アクティブラーニング」または「アクティブラーニングの視点に立った参加型授業」という言葉を用いた場合、調査票では「参加型学習」という言葉を用いていたことになる。

本調査では、教員による一方的な講義形式や思考を伴わない体験のみの教育とは異なり、学習者の能動的な学習への参加と思考を促す教授・学習法を総称して「参加型学習」と呼ぶこととします。

具体的には、以下の表に挙げたような手法を取り入れた学習を「参加型学習」と定義します。そして、これらの手法を取り入れた「参加型学習」を、全授業のうち1回でも実施した授業を調査の対象とします。

<u>意見発表・交換型</u> ： 議論や発表を通して、意見を交換・整理する形態	例えば ディベート、話し合い（ディスカッション）、 プレゼンテーション、ブレインストーミング など
<u>理解深化型</u> ： 自分の思考を客観的に振り返り、理解を深める形態	例えば 協調学習、学び合い、ふりかえり（リフレクション）、 自己による学習評価、作文 など
<u>課題解決型</u> ： 課題に対して解決策を提案、または実行する形態	例えば 課題解決型学習、ケーススタディ、探究・調べ学習、 プロジェクト型学習 など

※講義を一方的に聞くだけの授業は、「参加型学習」には含みません。

※教科書の音読や輪読、挙手、一問一答式の発問に対する回答、プリントや問題集の解答、実験・実習・実技、見学、教材の視聴など、生徒が何らかの活動を行うものでも、生徒の思考が活性化しない場合には、本調査での「参加型学習」には含みません。

ただし、「意見発表・交換型」「理解深化型」「課題解決型」等の思考の活性化を伴うプロセスを含むものであれば、本調査での「参加型学習」に含めるものとします。

図1 参加型学習の定義

7. 回収率

本調査の対象となる高等学校は、普通科またはそれに準ずる学科、および総合学科を設置する全国の高等学校のうち、「高等学校におけるアクティブラーニングの視点に立った参加型授業に関する実態調査2015」に回答した高等学校（計2,414校）である。すべて白紙であった調査票や重複して返送された調査票を除いた有効調査票数を整理した結果、有効な調査票を返送した高等学校の数は1,794校であった。教科主任調査・教員調査の教科別の配布数、回収数、回収率を表1に示した。また、都道府県別・設置者別の配布数、回収数、回収率を表2、表3に示した。

表1 教科別調査票配布・回収状況

項目		配布数	回収数	回収率
教科主任	国語	2,414	1,749	72.5%
	地歴・公民	2,414	1,718	71.2%
	数学	2,414	1,751	72.5%
	理科	2,414	1,727	71.5%
	外国語	2,414	1,735	71.9%
	合計	12,070	8,680	71.9%
教員	国語	2,414	1,575	65.2%
	地歴・公民	2,414	1,456	60.3%
	数学	2,414	1,315	54.5%
	理科	2,414	1,442	59.7%
	外国語	2,414	1,540	63.8%
	合計	12,070	7,328	60.7%

表2 都道府県別調査票配布・回収状況

都道府県	配布数	教科主任					教員					合計	回収率
		国語	地歴・公民	数学	理科	外国語	国語	地歴・公民	数学	理科	外国語		
北海道	162	113	108	111	109	108	102	89	85	97	94	114	70.4%
青森県	39	32	32	32	31	32	29	26	27	26	24	32	82.1%
岩手県	44	33	33	34	33	33	30	29	28	29	28	34	77.3%
宮城県	53	36	35	35	33	35	34	29	27	30	30	37	69.8%
秋田県	33	25	26	26	25	25	25	26	22	22	23	26	78.8%
山形県	28	24	24	23	24	23	23	23	18	21	22	24	85.7%
福島県	43	38	38	38	39	37	36	28	24	29	32	40	93.0%
茨城県	63	50	47	49	50	47	40	39	34	39	42	50	79.4%
栃木県	44	41	41	41	40	41	39	33	29	33	33	41	93.2%
群馬県	49	36	38	35	36	37	36	36	31	32	35	38	77.6%
埼玉県	97	66	63	67	65	66	55	52	43	48	56	68	70.1%
千葉県	103	71	70	71	70	72	62	67	40	54	64	72	69.9%
山梨県	28	20	20	20	20	20	19	18	19	20	20	20	71.4%
東京都	174	112	114	115	109	116	109	100	76	90	100	121	69.5%
神奈川県	111	74	74	76	75	73	67	64	65	63	70	77	69.4%
新潟県	52	38	37	37	37	37	32	23	26	27	27	38	73.1%
富山県	28	24	23	24	22	24	20	22	18	20	24	24	85.7%
石川県	25	20	19	21	21	21	20	18	20	20	20	21	84.0%
福井県	17	14	13	14	14	13	13	11	12	12	12	14	82.4%
長野県	65	44	45	45	44	44	41	33	28	33	42	47	72.3%
静岡県	84	65	65	65	63	65	60	60	54	60	58	65	77.4%
愛知県	122	89	86	91	90	90	72	73	69	72	84	92	75.4%
岐阜県	42	29	28	29	29	28	27	26	21	23	27	30	71.4%
三重県	38	32	30	33	32	32	28	25	27	30	29	33	86.8%
滋賀県	30	21	20	19	20	21	20	18	12	18	21	21	70.0%
京都府	50	32	30	33	32	33	28	25	20	26	29	33	66.0%
大阪府	111	71	70	70	70	71	62	50	44	55	60	72	64.9%
兵庫県	100	69	66	69	67	67	60	56	43	55	58	71	71.0%
奈良県	24	16	16	16	15	15	15	13	11	13	11	16	66.7%
和歌山県	13	10	10	10	10	9	9	9	8	7	8	10	76.9%
鳥取県	15	13	13	13	13	13	12	11	11	12	12	13	86.7%
島根県	20	17	17	17	17	16	16	17	16	16	14	17	85.0%
岡山県	36	26	25	26	25	25	23	20	21	21	22	27	75.0%
広島県	67	46	44	46	46	47	44	39	41	40	44	47	70.1%
山口県	32	25	25	25	25	25	22	19	15	20	23	25	78.1%
徳島県	17	12	13	11	12	12	11	11	9	12	11	13	76.5%
香川県	16	13	14	14	14	14	10	11	10	11	12	14	87.5%
愛媛県	32	25	24	25	24	24	24	21	20	22	22	25	78.1%
高知県	23	19	19	19	18	19	18	17	11	15	15	19	82.6%
福岡県	82	61	62	61	61	61	58	53	55	53	54	62	75.6%
佐賀県	18	12	13	13	13	13	7	8	10	10	12	13	72.2%
長崎県	35	23	23	23	23	23	20	18	16	18	19	23	65.7%
熊本県	27	22	21	23	21	22	19	18	21	17	18	23	85.2%
大分県	28	20	19	19	19	20	19	17	17	14	19	20	71.4%
宮崎県	21	16	15	16	16	15	13	11	15	13	14	16	76.2%
鹿児島県	42	31	28	29	31	29	24	24	25	25	25	32	76.2%
沖縄県	31	23	22	22	24	22	22	20	21	19	21	24	77.4%
合計	2,414	1,749	1,718	1,751	1,727	1,735	1,575	1,456	1,315	1,442	1,540	1,794	74.3%

表3 学校設置者別調査票配布・回収状況

設置者	配布数	教科主任					教員					合計	回収率
		国語	地歴・公民	数学	理科	外国語	国語	地歴・公民	数学	理科	外国語		
国立	9	7	6	8	8	7	7	6	7	7	7	8	88.9%
都道府県立	1,676	1,229	1,204	1,226	1,213	1,218	1,124	1,063	951	1,056	1,101	1,256	74.9%
その他公立	81	60	58	58	59	58	57	50	43	55	55	61	75.3%
私立	648	453	450	459	447	452	387	337	314	324	377	469	72.4%
合計	2,414	1,749	1,718	1,751	1,727	1,735	1,575	1,456	1,315	1,442	1,540	1,794	74.3%

74.3%という回収率は、昨年度と同様に、学校を対象とする調査の回収率としては際立って高い数字と言える。回答学校数は1,794校、回答者数はのべ16,021名と、高等学校におけるアクティブラーニングに関する縦断調査としては前例のない非常に大規模なものであり、多くの方々のご協力によりこのような調査を実施できたことは、大きな成果であった。

一方で、2015年・2016年と2年連続で調査票に回答した学校は、アクティブラーニングへの関心が高いなど、何らかの偏りがあると考えられる。回答数は多いとはいえ、結果を解釈する際には、一定のバイアスを伴う可能性があることに、慎重に配慮することが求められるだろう。

2. 調査の結果

1. 教員調査の結果

本節では、速報値として、2017年2月28日時点での教員調査データの分析結果を中心に報告する。

教員調査では、各教科主任に「各教科において参加型学習に力を入れて取り組んでいる先生を1人思い浮かべて」もらい、その教員に調査への回答を依頼した。また、その教員に、2015年度に実施した授業の中で「最もうまくいったと思われる単元」を1つ思い浮かべてもらい、その単元でどのような授業を行ったかについて回答してもらった。

教員調査の結果は、全国の高等学校の各教科において参加型学習に力を入れて取り組んでいる教員のデータであり、全国の高等学校の教員を代表するデータではないことに注意されたい。

1.1. 実施された科目

最もうまくいったと思われる単元として各教員が思い浮かべた単元の科目は、国語科では「現代文A・B」が、地歴・公民科では「現代社会」が、数学科では「数学I」が、理科では「生物基礎」が、外国語科では「コミュニケーション英語I」が多かった。

表4 国語科で最もうまくいったと思われる単元の科目

項目	度数	%
国語総合（現代文）	454	29.2
国語総合（古典）	153	9.8
現代文A・B	506	32.6
古典A・B	206	13.3
国語表現	171	11.0
その他	64	4.1
有効回答	1,554	100.0
無効回答	19	
無回答	35	
合計	1,608	

(注) 1. 教員調査の結果による。

2. 最もうまくいったと思われる単元の科目について、選択肢からあてはまるものを1つ選んでもらう形式で尋ねた（単一選択）。

表5 地歴・公民科で最もうまくいったと思われる単元の科目

項目	度数	%
世界史A・B	259	18.2
日本史A・B	261	18.3
地理A・B	218	15.3
現代社会	369	25.9
倫理	65	4.6
政治経済	163	11.4
その他	90	6.3
有効回答	1,425	100.0
無効回答	24	
無回答	35	
合計	1,484	

(注) 1. 教員調査の結果による。

2. 最もうまくいったと思われる単元の科目について、選択肢からあてはまるものを1つ選んでもらう形式で尋ねた（単一選択）。

表6 数学科で最もうまくいったと思われる単元の科目

項目	度数	%
数学Ⅰ	528	41.8
数学Ⅱ	233	18.4
数学Ⅲ	101	8.0
数学A	211	16.7
数学B	85	6.7
数学活用	21	1.7
その他	84	6.7
有効回答	1,263	100.0
無効回答	46	
無回答	30	
合計	1,339	

(注) 1. 教員調査の結果による。

2. 最もうまくいったと思われる単元の科目について、選択肢からあてはまるものを1つ選んでもらう形式で尋ねた(単一選択)。

表7 理科で最もうまくいったと思われる単元の科目

項目	度数	%
科学と人間生活	75	5.3
物理基礎	217	15.5
物理	140	10.0
化学基礎	198	14.1
化学	158	11.3
生物基礎	238	17.0
生物	186	13.2
地学基礎	65	4.6
地学	9	0.6
理科課題研究	57	4.1
その他	61	4.3
有効回答	1,404	100.0
無効回答	35	
無回答	24	
合計	1,463	

(注) 1. 教員調査の結果による。

2. 最もうまくいったと思われる単元の科目について、選択肢からあてはまるものを1つ選んでもらう形式で尋ねた(単一選択)。

表8 外国語科で最もうまくいったと思われる単元の科目

項目	度数	%
コミュニケーション英語基礎	12	0.8
コミュニケーション英語Ⅰ	466	31.2
コミュニケーション英語Ⅱ	352	23.6
コミュニケーション英語Ⅲ	130	8.7
英語表現Ⅰ	161	10.8
英語表現Ⅱ	141	9.4
英語会話	101	6.8
その他	130	8.7
有効回答	1,493	100.0
無効回答	40	
無回答	50	
合計	1,583	

(注) 1. 教員調査の結果による。

2. 最もうまくいったと思われる単元の科目について、選択肢からあてはまるものを1つ選んでもらう形式で尋ねた(単一選択)。

1.2. 実施された学年

最もうまくいったと思われる単元が実施された学年は、高校1年生が38.4%、高校2年生が34.1%、高校3年生が27.6%と、学年による大きな違いは見られなかった。

ただし、教科によって若干の違いは見られ、数学科では1年生の単元が、理科では2年生の単元が、地歴・公民科では3年生の単元が多かった。

表9 単元が実施された学年

項目	国語		地歴・公民		数学		理科		外国語		合計	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
高校1年生	582	37.5	427	30.2	717	56.1	378	27.2	638	42.3	2,742	38.4
高校2年生	511	32.9	491	34.7	327	25.6	590	42.4	517	34.2	2,436	34.1
高校3年生	461	29.7	497	35.1	235	18.4	423	30.4	355	23.5	1,971	27.6
有効回答数	1,554	100.0	1,415	100.0	1,279	100.0	1,391	100.0	1,510	100.0	7,149	100.0
無効回答	13		31		24		41		20		129	
無回答	41		38		36		31		53		199	
合計	1,608		1,484		1,339		1,463		1,583		7,477	

(注) 1. 教員調査の結果による。

2. 最もうまくいったと思われる単元が実施された学年について、選択肢からあてはまるものを1つ選んでもらう形式で尋ねた(単一選択)。

1.3. 扱った分野・テーマなど

最もうまくいったと思われる単元で扱った分野やテーマなどについて尋ねた。

2.3.1. 国語科の単元で扱った分野・テーマ

国語科の単元で扱った分野・テーマは、「小説」が47.0%と最も多く、「評論」20.4%、「古文の物語／説話／軍記」15.4%と続いた。

表10 国語科の単元で扱った分野・テーマ

項目	度数	%
現代文		
小説	705	47.0
評論	306	20.4
詩歌	124	8.3
その他	198	13.2
古典		
古文の物語／説話／軍記	231	15.4
古文の随筆／日記／紀行	116	4.6
和歌	47	3.1
ストーリー展開が中心にある漢文	95	6.3
思想・評論など主張や議論が中心にある漢文	41	2.7
漢詩・詩話	27	1.8
その他	29	1.9
有効回答数	1,500	100.0
無回答	108	
合計	1,608	

(注) 1. 教員調査の結果による。

2. 最もうまくいったと思われる単元の分野・テーマについて、選択肢からあてはまるものをすべて選んでもらう形式で尋ねた(複数選択)。
3. 複数選択であるため合計は100%ではない。

2.3.2. 国語科の単元で扱った作品

国語科の単元で扱った作品は、芥川龍之介『羅生門』が16.6%で最も多く、中島敦『山月記』9.7%、夏目漱石『こころ』8.0%と続いた。

表 11 国語科の単元で扱った作品

項目	度数	%
羅生門	217	16.6
山月記	127	9.7
こころ	104	8.0
舞姫	45	3.5
伊勢物語	41	3.1
史記（鴻門之会、完璧而帰、廉頗・藺相如列伝、項羽と劉邦、項王の最期、鶏鳴狗盗、季札挂劍、など）	36	2.8
枕草子	36	2.8
水の東西	30	2.3
源氏物語	30	2.3
徒然草	27	2.1
宇治拾遺物語	26	2.0
平家物語	22	1.7
夢十夜	21	1.6
檸檬	21	1.6
永訣の朝	21	1.6
十八史略（臥薪嘗胆、先従隗始、莫敢飾詐、管鮑之交、赤壁之戦、など）	17	1.3
大鏡	16	1.2
竹取物語	14	1.1
山椒魚	14	1.1
「である」ことと「する」こと	13	1.0
赤い繭	12	0.9
土佐日記	11	0.8
更級日記	10	0.8
城の崎にて	10	0.8
その他	707	54.2
有効回答数	1,304	100.0
無回答	304	
合計	1,608	

(注) 1. 教員調査の結果による。

2. 単元で扱った作品を2つまで自由記述形式で尋ね、度数が10以上のものについて集計した。

2.3.3. 数学科の単元で扱った分野・テーマ

数学科の単元で扱った分野・テーマは、「二次関数」が 27.8%と最も多く、「場合の数と確率」17.7%、「図形と計量」17.1%と続いた。

表 12 数学科の単元で扱った分野・テーマ

項目	度数	%
数学Ⅰ		
数と式	207	15.9
二次関数	361	27.8
図形と計量	222	17.1
データの分析	153	11.8
その他	14	1.1
数学Ⅱ		
いろいろな式	92	1.1
図形と方程式	137	10.5
指数関数・対数関数	92	7.1
三角関数	118	9.1
微分・積分の考え	95	7.3
その他	6	0.5
数学Ⅲ		
平面上の曲線と複素数平面	45	3.5
極限	61	4.7
微分法	79	6.1
積分法	67	5.2
その他	8	0.6
数学A		
場合の数と確率	230	17.7
整数の性質	74	5.7
図形の性質	92	7.1
その他	3	0.2
数学B		
数列	90	6.9
ベクトル	94	7.2
確率分布と統計的な推測	12	0.9
その他	3	0.2
数学活用		
数と図形と人間の活動	16	1.2
遊びの中の数学	13	1.0
社会生活と数学	13	1.0
数学的な表現の工夫	10	0.8
データの分析	7	0.5
その他	5	0.4
その他	33	2.5
有効回答数	1,299	100.0
無回答	40	
合計	1,339	

- (注) 1. 教員調査の結果による。
 2. 最もうまくいったと思われる単元の分野・テーマについて、選択肢からあてはまるものをすべて選んでもらう形式で尋ねた(複数選択)。
 3. 複数選択であるため合計は100%ではない。

2.3.4. 理科の単元で扱った分野・テーマ

理科の単元で扱った分野・テーマは、物理基礎「力学」が14.9%と最も多く、生物基礎「生物と遺伝子」10.7%、化学基礎「物質の変化」10.3%と続いた。

表13 理科の単元で扱った分野・テーマ

項目	度数	%	項目	度数	%
科学と人間生活			生物基礎		
科学技術の発展	19	1.3	生物と遺伝子	153	10.7
光や熱の科学	23	1.6	生物の体内環境の維持	115	8.0
物質の科学	37	2.6	生物の多様性と生態系	133	9.3
生命の科学	33	2.3	その他	18	1.3
宇宙や地球の科学	28	2.0	生物		
これからの科学と人間生活	10	0.7	生命現象と物質	118	8.2
その他	7	0.5	生殖と発生	75	5.2
物理基礎			生物の環境応答	80	5.6
力学	213	14.9	生態と環境	65	4.5
熱	58	4.0	進化と系統	37	2.6
波	82	5.7	その他	10	0.7
電気	37	2.6	地学基礎		
エネルギーとその利用	24	1.7	惑星としての地球	26	1.8
その他	2	0.1	活動する地球	35	2.4
物理			移り変わる地球	26	1.8
力学	103	7.2	大気と海洋	23	1.6
熱	44	3.1	宇宙の構成	18	1.3
波動	60	4.2	その他	5	0.3
電磁気	54	3.7	地学		
原子	16	1.1	地球の概観	8	0.6
その他	2	0.1	地球の活動	10	0.7
化学基礎			地球の歴史	8	0.6
化学と人間生活	30	2.1	大気と海洋	4	0.3
物質の構成	144	10.0	宇宙の構造	9	0.6
物質の変化	149	10.3	その他	1	0.1
その他	6	0.4	理科課題研究		
化学			特定の自然の事物・現象に関する研究	43	3.0
物質の状態	67	4.7	先端科学や学際的領域に関する研究	19	1.3
物質の変化と平衡	77	5.4	自然環境の調査に基づく研究	27	1.9
無機物質	79	5.5	科学を発展させた実験に関する研究	15	1.0
有機化合物	78	5.4	その他	8	0.6
天然有機化合物	17	1.2	その他	27	1.9
合成高分子化合物	16	1.1	有効回答数	1,433	100.0
その他	2	0.1	無回答	30	
			合計	1,463	

- (注) 1. 教員調査の結果による。
 2. 最もうまくいったと思われる単元の分野・テーマについて、選択肢からあてはまるものをすべて選んでもらう形式で尋ねた(複数選択)。
 3. 複数選択であるため合計は100%ではない。

2.3.5. 外国語科の単元で扱った分野

外国語科の単元で扱った分野は、「自由英作文」が45.7%と最も多く、「会話文・対話文」31.9%、「ヒアリング」23.8%と続いた。その他としては、「英文読解」「プレゼンテーション」「スピーキング」「リテリング」「ディベート」などが挙げられた。

表 14 外国語科の単元で扱った分野

項目	度数	%
英文和訳	278	18.6
文法・語法（会話文・対話文以外）	340	22.8
会話文・対話文	477	31.9
英作文（自由英作文以外）	327	21.9
自由英作文	683	45.7
ヒアリング	356	23.8
その他	498	33.3
有効回答数	1,494	100.0
無回答	89	
合計	1,583	

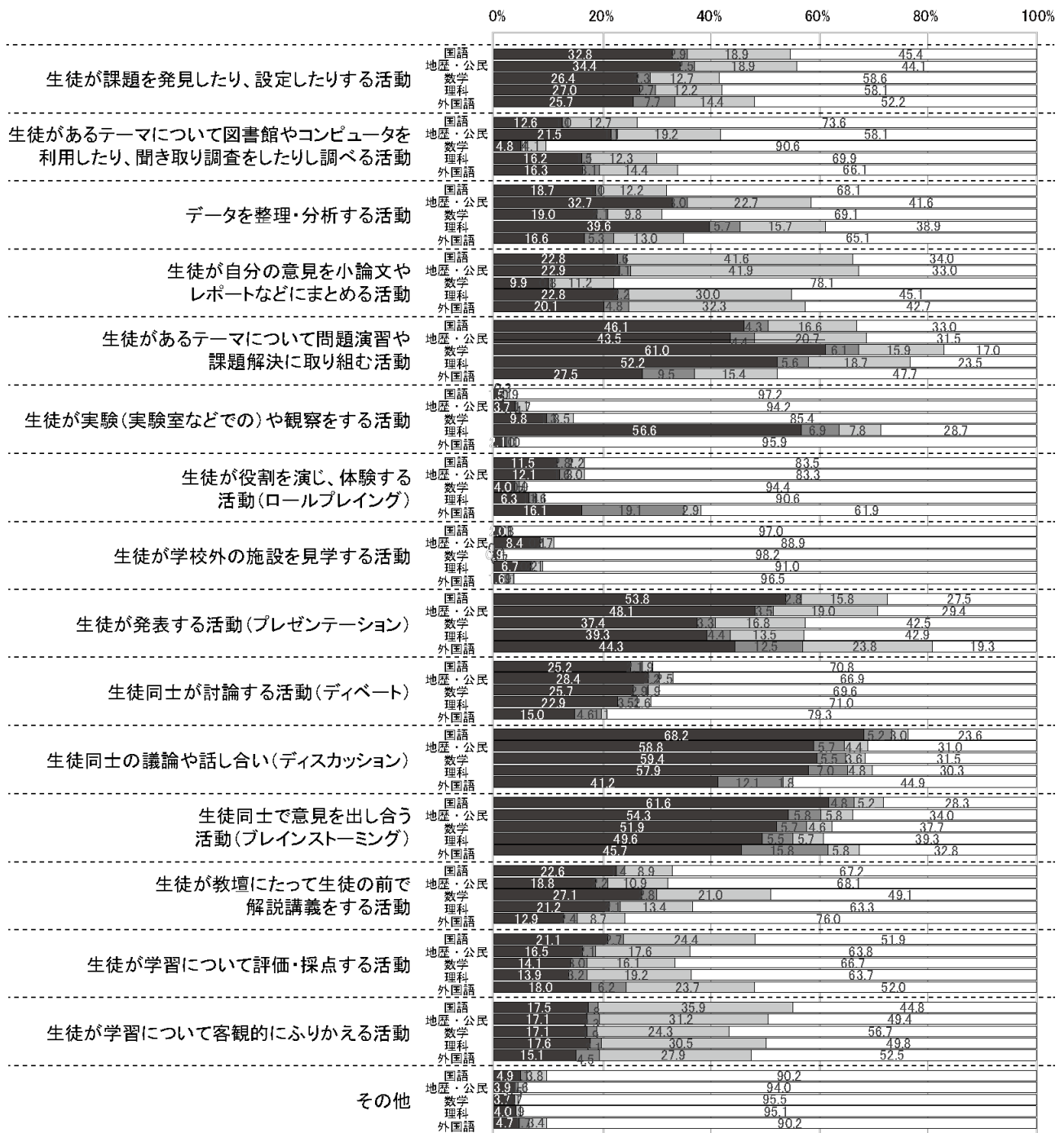
- (注) 1. 教員調査の結果による。
2. 最もうまくいったと思われる単元の分野について、選択肢からあてはまるものをすべて選んでもらう形式で尋ねた（複数選択）。
3. 複数選択であるため合計は100%ではない。

1.4. 学習活動の種類

単元で実施された学習活動の種類について尋ねた。15種類の学習活動について、単元内での実施の有無を尋ねた。加えて、実施した学習活動については、その実施主体について「生徒3名以上のグループ」「生徒2名」「生徒個人」のいずれかを選択してもらった。

実施されていた活動として多く挙げられたのは、「生徒があるテーマについて問題演習や課題解決に取り組む活動」「生徒同士の議論や話し合い（ディスカッション）」「生徒同士で意見を出し合う活動（ブレインストーミング）」などであった。教科によって大きな違いは見られなかったが、理科における「生徒が実験（実験室などでの）や観察をする活動」、外国語科における「生徒が役割を演じ、体験する活動（ロールプレイング）」は、他教科よりも多く実施されていた。

実施主体としては、全体としては生徒3名以上のグループによる学習活動が多かった。生徒3名以上のグループでの学習活動は、「生徒同士の議論や話し合い（ディスカッション）」や「生徒同士で意見を出し合う活動（ブレインストーミング）」などが、生徒個人での学習活動は、「生徒が自分の意見を小論文やレポートなどにまとめる活動」や「生徒が学習について客観的にふりかえる活動」が多かった。生徒2名での学習活動は、外国語科での「生徒が役割を演じ、体験する活動（ロールプレイング）」に多く見られたが、全体としてあまり実施されていなかった。



■ 生徒3名以上のグループ ■ 生徒2名 ■ 生徒個人 □ 実施しなかった

図2 最もうまくいったと思われる単元で実施された学習活動とその主体

表 15 国語科における単元で実施された学習活動とその主体

項目	実施の主体						実施しなかった	有効回答	非該当	無効回答	無回答	合計	
	生徒3名以上		生徒2名		生徒個人								
	度数	%	度数	%	度数	%							
生徒が課題を発見したり、設定したりする活動	471	32.8	42	2.9	271	18.9	652	45.4	1,436	140	9	163	1,748
生徒があるテーマについて図書館やコンピュータを利用したり、聞き取り調査をしたりして調べる活動	183	12.6	15	1.0	184	12.7	1,066	73.6	1,448	140	3	157	1,748
データを整理・分析する活動	270	18.7	14	1.0	176	12.2	984	68.1	1,444	140	10	154	1,748
生徒が自分の意見を小論文やレポートなどにまとめる活動	333	22.8	23	1.6	607	41.6	496	34.0	1,459	140	11	138	1,748
生徒があるテーマについて問題演習や課題解決に取り組む活動	671	46.1	63	4.3	241	16.6	481	33.0	1,456	140	8	144	1,748
生徒が実験（実験室などでの）や観察をする活動	22	1.5	5	0.3	13	0.9	1,393	97.2	1,433	140	1	174	1,748
生徒が役割を演じ、体験する活動（ロールプレイング）	167	11.5	40	2.8	32	2.2	1,209	83.5	1,448	140	1	159	1,748
生徒が学校外の施設を見学する活動	29	2.0	2	0.1	12	0.8	1,383	97.0	1,426	140	4	178	1,748
生徒が発表する活動（プレゼンテーション）	795	53.8	42	2.8	234	15.8	406	27.5	1,477	140	9	122	1,748
生徒同士が討論する活動（ディベート）	367	25.2	30	2.1	27	1.9	1,030	70.8	1,454	140	3	151	1,748
生徒同士の議論や話し合い（ディスカッション）	1,022	68.2	77	5.2	45	3.0	354	23.6	1,498	140	5	105	1,748
生徒同士で意見を出し合う活動（ブレインストーミング）	907	61.6	71	4.8	77	5.2	417	28.3	1,472	140	5	131	1,748
生徒が教壇にたって生徒の前で解説講義をする活動	328	22.6	20	1.4	129	8.9	976	67.2	1,453	140	5	150	1,748
生徒が学習について評価・採点する活動	308	21.1	39	2.7	356	24.4	759	51.9	1,462	140	4	142	1,748
生徒が学習について客観的にふりかえる活動	255	17.5	27	1.8	524	35.9	654	44.8	1,460	140	3	145	1,748
その他	22	4.9	5	1.1	17	3.8	405	90.2	449	140	2	1,157	1,748

- (注) 1. 教員調査の結果による。
 2. 最もうまくいったと思われる単元で実施された学習活動について、「生徒3名以上のグループ」「生徒2名」「生徒個人」「実施しなかった」の選択肢から、あてはまるものを1つ選んでもらう形式で尋ねた（単一選択）。

表 16 地歴・公民科における単元で実施された学習活動とその主体

項目	実施の主体						実施しなかった	有効回答	非該当	無効回答	無回答	合計	
	生徒3名以上		生徒2名		生徒個人								
	度数	%	度数	%	度数	%							
生徒が課題を発見したり、設定したりする活動	464	34.4	34	2.5	255	18.9	595	44.1	1,348	233	1	135	1,717
生徒があるテーマについて図書館やコンピュータを利用したり、聞き取り調査をしたりして調べる活動	293	21.5	15	1.1	262	19.2	792	58.1	1,362	233	4	118	1,717
データを整理・分析する活動	443	32.7	40	3.0	308	22.7	564	41.6	1,355	233	3	126	1,717
生徒が自分の意見を小論文やレポートなどにまとめる活動	313	22.9	29	2.1	572	41.9	450	33.0	1,364	233	2	118	1,717
生徒があるテーマについて問題演習や課題解決に取り組む活動	593	43.5	60	4.4	282	20.7	429	31.5	1,364	233	2	118	1,717
生徒が実験（実験室などでの）や観察をする活動	50	3.7	5	0.4	23	1.7	1,263	94.2	1,341	233	0	143	1,717
生徒が役割を演じ、体験する活動（ロールプレイング）	163	12.1	21	1.6	41	3.0	1,123	83.3	1,348	233	0	136	1,717
生徒が学校外の施設を見学する活動	113	8.4	1	0.1	36	2.7	1,200	88.9	1,350	233	2	132	1,717
生徒が発表する活動（プレゼンテーション）	662	48.1	48	3.5	262	19.0	405	29.4	1,377	233	1	106	1,717
生徒同士が討論する活動（ディベート）	386	28.4	30	2.2	34	2.5	911	66.9	1,361	233	1	122	1,717
生徒同士の議論や話し合い（ディスカッション）	815	58.8	79	5.7	61	4.4	430	31.0	1,385	233	2	97	1,717
生徒同士で意見を出し合う活動（ブレインストーミング）	746	54.3	80	5.8	80	5.8	467	34.0	1,373	233	0	111	1,717
生徒が教壇にたって生徒の前で解説講義をする活動	254	18.8	30	2.2	148	10.9	922	68.1	1,354	233	2	128	1,717
生徒が学習について評価・採点する活動	224	16.5	28	2.1	239	17.6	865	63.8	1,356	233	0	128	1,717
生徒が学習について客観的にふりかえる活動	233	17.1	32	2.3	425	31.2	674	49.4	1,364	233	2	118	1,717
その他	17	3.9	2	0.5	7	1.6	408	94.0	434	233	0	1,050	1,717

- (注) 1. 教員調査の結果による。
 2. 最もうまくいったと思われる単元で実施された学習活動について、「生徒3名以上のグループ」「生徒2名」「生徒個人」「実施しなかった」の選択肢から、あてはまるものを1つ選んでもらう形式で尋ねた（単一選択）。

表 17 数学科における単元で実施された学習活動とその主体

項目	実施の主体						実施しなかった	有効回答	非該当	無効回答	無回答	合計	
	生徒3名以上		生徒2名		生徒個人								
	度数	%	度数	%	度数	%							
生徒が課題を発見したり、設定したりする活動	317	26.4	28	2.3	152	12.7	704	58.6	1,201	411	1	137	1,750
生徒があるテーマについて図書館やコンピュータを利用したり、聞き取り調査をしたりして調べる活動	58	4.8	5	0.4	50	4.1	1,094	90.6	1,207	411	0	132	1,750
データを整理・分析する活動	230	19.0	25	2.1	119	9.8	836	69.1	1,210	411	1	128	1,750
生徒が自分の意見を小論文やレポートなどにまとめる活動	119	9.9	10	0.8	135	11.2	940	78.1	1,204	411	1	134	1,750
生徒があるテーマについて問題演習や課題解決に取り組む活動	761	61.0	76	6.1	199	15.9	212	17.0	1,248	411	2	89	1,750
生徒が実験（実験室などでの）や観察をする活動	118	9.8	16	1.3	42	3.5	1,030	85.4	1,206	411	0	133	1,750
生徒が役割を演じ、体験する活動（ロールプレイング）	48	4.0	9	0.7	11	0.9	1,138	94.4	1,206	411	1	132	1,750
生徒が学校外の施設を見学する活動	11	0.9	2	0.2	9	0.7	1,180	98.2	1,202	411	0	137	1,750
生徒が発表する活動（プレゼンテーション）	456	37.4	40	3.3	205	16.8	518	42.5	1,219	411	1	119	1,750
生徒同士が討論する活動（ディベート）	311	25.7	35	2.9	23	1.9	843	69.6	1,212	411	0	127	1,750
生徒同士の議論や話し合い（ディスカッション）	729	59.4	68	5.5	44	3.6	387	31.5	1,228	411	2	109	1,750
生徒同士で意見を出し合う活動（ブレインストーミング）	633	51.9	70	5.7	56	4.6	460	37.7	1,219	411	2	118	1,750
生徒が教壇にたって生徒の前で解説講義をする活動	335	27.1	34	2.8	259	21.0	607	49.1	1,235	411	0	104	1,750
生徒が学習について評価・採点する活動	172	14.1	37	3.0	196	16.1	813	66.7	1,218	411	1	120	1,750
生徒が学習について客観的にふりかえる活動	208	17.1	23	1.9	295	24.3	688	56.7	1,214	411	0	125	1,750
その他	15	3.7	0	0.0	3	0.7	384	95.5	402	411	1	936	1,750

- (注) 1. 教員調査の結果による。
 2. 最もうまくいったと思われる単元で実施された学習活動について、「生徒3名以上のグループ」「生徒2名」「生徒個人」「実施しなかった」の選択肢から、あてはまるものを1つ選んでもらう形式で尋ねた（単一選択）。

表 18 理科における単元で実施された学習活動とその主体

項目	実施の主体						実施しなかった		有効回答	非該当	無効回答	無回答	合計
	生徒3名以上		生徒2名		生徒個人		度数	%					
	度数	%	度数	%	度数	%			度数	度数			
生徒が課題を発見したり、設定したりする活動	350	27.0	35	2.7	158	12.2	752	58.1	1,295	263	5	163	1,726
生徒があるテーマについて図書館やコンピュータを利用したり、聞き取り調査をしたりして調べる活動	210	16.2	20	1.5	160	12.3	907	69.9	1,297	263	3	163	1,726
データを整理・分析する活動	519	39.6	75	5.7	206	15.7	510	38.9	1,310	263	4	149	1,726
生徒が自分の意見を小論文やレポートなどにまとめる活動	294	22.8	28	2.2	387	30.0	583	45.1	1,292	263	4	167	1,726
生徒があるテーマについて問題演習や課題解決に取り組む活動	697	52.2	75	5.6	250	18.7	314	23.5	1,336	263	6	121	1,726
生徒が実験（実験室などでの）や観察をする活動	759	56.6	93	6.9	105	7.8	385	28.7	1,342	263	6	115	1,726
生徒が役割を演じ、体験する活動（ロールプレイング）	82	6.3	18	1.4	21	1.6	1,173	90.6	1,294	263	1	168	1,726
生徒が学校外の施設を見学する活動	87	6.7	2	0.2	27	2.1	1,178	91.0	1,294	263	1	168	1,726
生徒が発表する活動（プレゼンテーション）	513	39.3	57	4.4	176	13.5	561	42.9	1,307	263	7	149	1,726
生徒同士が討論する活動（ディベート）	299	22.9	45	3.5	34	2.6	926	71.0	1,304	263	3	156	1,726
生徒同士の議論や話し合い（ディスカッション）	765	57.9	93	7.0	63	4.8	400	30.3	1,321	263	5	137	1,726
生徒同士で意見を出し合う活動（ブレインストーミング）	655	49.6	73	5.5	75	5.7	519	39.3	1,321	263	3	139	1,726
生徒が教壇にたって生徒の前で解説講義をする活動	277	21.2	28	2.1	175	13.4	827	63.3	1,307	263	4	152	1,726
生徒が学習について評価・採点する活動	181	13.9	41	3.2	250	19.2	829	63.7	1,301	263	4	158	1,726
生徒が学習について客観的にふりかえる活動	229	17.6	27	2.1	396	30.5	647	49.8	1,299	263	3	161	1,726
その他	17	4.0	0	0.0	4	0.9	404	95.1	425	263	1	1,037	1,726

- (注) 1. 教員調査の結果による。
 2. 最もうまくいったと思われる単元で実施された学習活動について、「生徒3名以上のグループ」「生徒2名」「生徒個人」「実施しなかった」の選択肢から、あてはまるものを1つ選んでもらう形式で尋ねた（単一選択）。

表 19 外国語科における単元で実施された学習活動とその主体

項目	実施の主体						実施しなかった	有効回答	非該当	無効回答	無回答	合計	
	生徒3名以上		生徒2名		生徒個人								
	度数	%	度数	%	度数	%							
生徒が課題を発見したり、設定したりする活動	364	25.7	109	7.7	204	14.4	738	52.2	1,415	150	1	167	1,733
生徒があるテーマについて図書館やコンピュータを利用したり、聞き取り調査をしたりして調べる活動	234	16.3	45	3.1	206	14.4	947	66.1	1,432	150	1	150	1,733
データを整理・分析する活動	237	16.6	76	5.3	185	13.0	930	65.1	1,428	150	0	155	1,733
生徒が自分の意見を小論文やレポートなどにまとめる活動	289	20.1	69	4.8	464	32.3	613	42.7	1,435	150	5	143	1,733
生徒があるテーマについて問題演習や課題解決に取り組む活動	391	27.5	135	9.5	219	15.4	679	47.7	1,424	150	5	154	1,733
生徒が実験（実験室などでの）や観察をする活動	30	2.1	14	1.0	14	1.0	1,357	95.9	1,415	150	3	165	1,733
生徒が役割を演じ、体験する活動（ロールプレイング）	230	16.1	273	19.1	42	2.9	885	61.9	1,430	150	5	148	1,733
生徒が学校外の施設を見学する活動	23	1.6	12	0.9	15	1.1	1,361	96.5	1,411	150	4	168	1,733
生徒が発表する活動（プレゼンテーション）	654	44.3	185	12.5	351	23.8	285	19.3	1,475	150	10	98	1,733
生徒同士が討論する活動（ディベート）	213	15.0	66	4.6	15	1.1	1,128	79.3	1,422	150	2	159	1,733
生徒同士の議論や話し合い（ディスカッション）	591	41.2	173	12.1	26	1.8	644	44.9	1,434	150	5	144	1,733
生徒同士で意見を出し合う活動（ブレインストーミング）	658	45.7	227	15.8	84	5.8	472	32.8	1,441	150	5	137	1,733
生徒が教壇にたって生徒の前で解説講義をする活動	184	12.9	34	2.4	124	8.7	1,085	76.0	1,427	150	2	154	1,733
生徒が学習について評価・採点する活動	259	18.0	89	6.2	341	23.7	747	52.0	1,436	150	3	144	1,733
生徒が学習について客観的にふりかえる活動	216	15.1	64	4.5	401	27.9	754	52.5	1,435	150	1	147	1,733
その他	19	4.7	7	1.7	14	3.4	367	90.2	407	150	0	1,176	1,733

- (注) 1. 教員調査の結果による。
 2. 最もうまくいったと思われる単元で実施された学習活動について、「生徒3名以上のグループ」「生徒2名」「生徒個人」「実施しなかった」の選択肢から、あてはまるものを1つ選んでもらう形式で尋ねた（単一選択）。

1.5. 参加型授業を実施したタイミング

その単元の中で参加型授業を実施したタイミングについては、「その単元のおわりの頃の授業」が45.0%、「その単元の中頃の授業」が29.1%、「その単元での毎回の授業」が25.8%、「その単元のはじめの頃の授業」が20.0%と、単元の終わりの頃に参加型の学習活動が実施されることが多かった。

教科別に見ると、地歴・公民科においては、他教科よりも「単元の毎回の授業」実施する割合がやや低く、「単元のはじめの頃」で実施する割合がやや高かった。一方、外国語科においては、他教科よりも「単元の中頃」に実施する割合が低く、「単元のおわりの頃」に実施する割合が高かった。

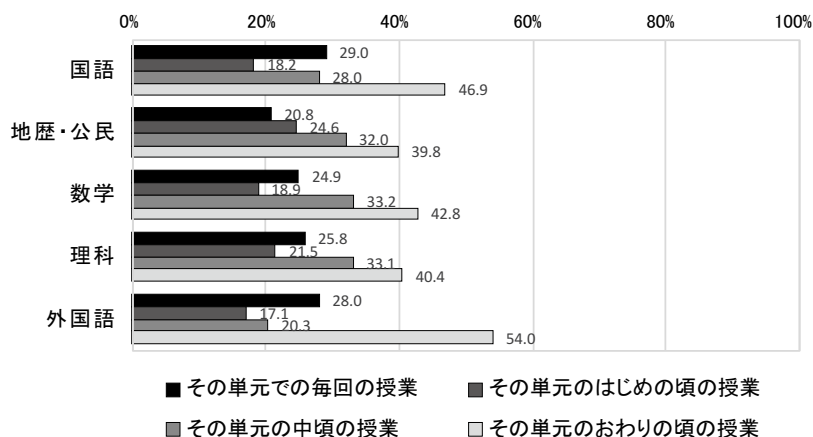


図3 参加型学習を取り入れた授業を実施したタイミング

表20 参加型学習を取り入れた授業を実施したタイミング

項目	国語		地歴・公民		数学		理科		外国語		合計	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
その単元での毎回の授業	447	29.0	290	20.8	321	24.9	357	25.8	417	28.0	1,832	25.8
その単元のはじめの頃の授業	281	18.2	343	24.6	243	18.9	297	21.5	254	17.1	1,418	20.0
その単元の中頃の授業	431	28.0	446	32.0	427	33.2	457	33.1	303	20.3	2,064	29.1
その単元のおわりの頃の授業	722	46.9	555	39.8	551	42.8	559	40.4	804	54.0	3,191	45.0
有効回答数	1,540	100.0	1,394	100.0	1,288	100.0	1,382	100.0	1,489	100.0	7,093	100.0
無回答	68		90		51		81		94		384	
合計	1,608		1,484		1,339		1,463		1,583		7,477	

- (注) 1. 教員調査の結果による。
 2. 最もうまくいったと思われる単元で参加型学習を取り入れた授業を実施したタイミングについて、「その単元での毎回の授業」「その単元のはじめの頃の授業」「その単元の中頃の授業」「その単元のおわりの頃の授業」の選択肢から、あてはまるものをすべて選んでもらう形式で尋ねた（複数選択）。
 3. 複数選択であるため合計は100%ではない。

1.6. 参加型授業を実施した頻度

単元を実施した科目で参加型学習を取り入れた授業を実施した頻度は、「毎回の授業」が18.4%、「学期に複数回」が50.6%、「学期に1回」が15.1%、「年に1～2回」が15.9%であった。

教科別に見ると、数学科、理科、外国語科では、20%以上が「毎回の授業」で実施していたが、国語科と地歴・公民科では14%前後に留まっていた。数学科では他教科に比べ、参加型授業の実施率は低かったものの（p. 18 参照）、実施の頻度は高いということがわかった。

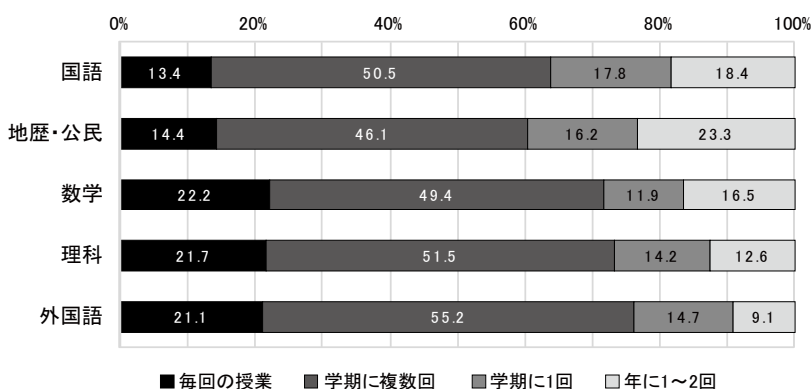


図4 参加型授業を実施した頻度

表21 参加型授業を実施した頻度

項目	国語		地歴・公民		数学		理科		外国語		合計	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
毎回の授業	206	13.4	204	14.4	287	22.2	305	21.7	316	21.1	1,318	18.4
学期に複数回	778	50.5	653	46.1	639	49.4	723	51.5	829	55.2	3,622	50.6
学期に1回	275	17.8	230	16.2	154	11.9	200	14.2	220	14.7	1,079	15.1
年に1～2回	283	18.4	331	23.3	213	16.5	177	12.6	136	9.1	1,140	15.9
有効回答数	1,542	100.0	1,418	100.0	1,293	100.0	1,405	100.0	1,501	100.0	7,159	100.0
無効回答	2		2		4		1		3		12	
無回答	64		64		42		57		79		306	
合計	1,608		1,484		1,339		1,463		1,583		7,477	

(注) 1. 教員調査の結果による。

2. 最もうまくいったと思われる単元の科目で参加型学習を取り入れた授業を実施した頻度について、「毎回の授業」「学期に複数回」「学期に1回」「年に1～2回」の選択肢から、あてはまるものを1つ選んでもらう形式で尋ねた（単一選択）。

1.7. 参加型授業で使用した教材

最もうまくいったと思われる単元で使用した教材は、いずれの教科でも「教科書」や「教員が独自に作成したプリント」が多かった。次いで「副教材（教科書以外の学校指定の補助教材）」の使用が多く、特に地歴・公民科での使用が多かった。

「資料」「その他」の自由記述欄に多く挙げられたのは、「インターネットからの資料やデータ」「ビデオやDVDなどの映像」「新聞記事」「図書館の書籍」などであった。各教科において特に多かった回答は、国語科では、教科書以外の書籍、新聞記事、図書館の書籍、辞典・辞書類など、地歴・公民科では、写真・動画などの視聴覚教材、新聞記事、図書館の書籍、地形図など、数学科では、公開されている計量データ、専門の論文・文献など、理科では、パワーポイント、実験器具・薬品、図書館の書籍、大学や研究所による資料、Newton 等の科学雑誌、分子模型キット、iPad など、外国語科では、パワーポイント、画像、映画や YouTube、海外のニュース記事、ALT のスピーチ・プレゼンなどであった。

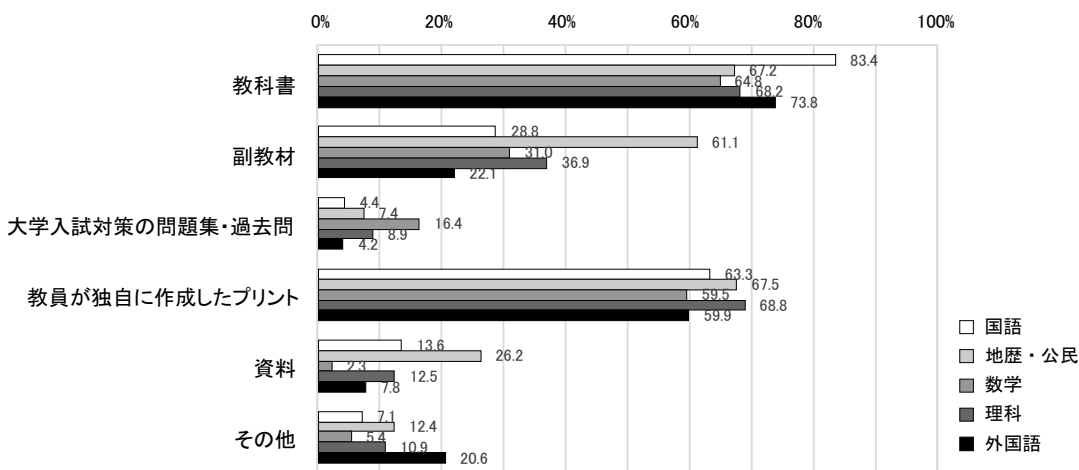


図 5 参加型授業で使用された教材

表 22 国語科の参加型授業で使用された教材

項目	度数	%
教科書	1,299	83.4
副教材（教科書以外の学校指定の補助的教材）	448	28.8
大学入試対策の問題集・大学入試の過去問	68	4.4
教員が独自に作成したプリント	985	63.3
資料	211	13.6
その他	111	7.1
有効回答数	1,557	100.0
無回答	51	
合計	1,608	

- (注) 1. 教員調査の結果による。
 2. 最もうまくいったと思われる単元で使用した教材について、選択肢からあてはまるものをすべて選んでもらう形式で尋ねた（複数選択）。
 3. 複数選択であるため合計は 100% ではない。

表 23 地歴・公民科の参加型授業で使用された教材

項目	度数	%
教科書（本文）	923	64.1
教科書（本文以外）	515	35.7
副教材（教科書以外の学校指定の補助的教材）	881	61.1
大学入試対策の問題集・大学入試の過去問	107	7.4
教員が独自に作成したプリント	973	67.5
資料	378	26.2
その他	178	12.4
有効回答数	1,441	100.0
無回答	43	
合計	1,484	

- (注) 1. 教員調査の結果による。
 2. 最もうまくいったと思われる単元で使用した教材について、選択肢からあてはまるものをすべて選んでもらう形式で尋ねた（複数選択）。
 3. 複数選択であるため合計は100%ではない。

表 24 数学科の参加型授業で使用された教材

項目	度数	%
教科書（基本事項・例題）	633	48.3
教科書（練習問題）	499	38.1
教科書（巻末・章末・発展問題）	344	26.2
副教材（教科書以外の学校指定の補助的教材）	406	31.0
大学入試対策の問題集・大学入試の過去問	215	16.4
教員が独自に作成したプリント	780	59.5
資料	30	2.3
その他	71	5.4
有効回答数	1,310	100.0
無回答	29	
合計	1,339	

- (注) 1. 教員調査の結果による。
 2. 最もうまくいったと思われる単元で使用した教材について、選択肢からあてはまるものをすべて選んでもらう形式で尋ねた（複数選択）。
 3. 複数選択であるため合計は100%ではない。

表 25 理科の参加型授業で使用された教材

項目	度数	%
教科書（基本事項・例題）	717	50.5
教科書（発展問題）	211	14.8
教科書（観察・実験、探究活動）	484	34.1
副教材（教科書以外の学校指定の補助的教材）	525	36.9
大学入試対策の問題集・大学入試の過去問	127	8.9
教員が独自に作成したプリント	978	68.8
資料	177	12.5
その他	155	10.9
有効回答数	1,421	100.0
無回答	42	
合計	1,463	

- (注) 1. 教員調査の結果による。
 2. 最もうまくいったと思われる単元で使用した教材について、選択肢からあてはまるものをすべて選んでもらう形式で尋ねた（複数選択）。
 3. 複数選択であるため合計は100%ではない。

表 26 外国語科の参加型授業で使用された教材

項目	度数	%
教科書（基本事項・例題）	1,049	68.9
教科書（発展問題）	276	18.1
副教材（教科書以外の学校指定の補助的教材）	336	22.1
大学入試対策の問題集・大学入試の過去問	64	4.2
教員が独自に作成したプリント	911	59.9
資料	118	7.8
WEB上の記事や文章から	235	15.4
その他	98	6.4
有効回答数	1,522	100.0
無回答	61	
合計	1,583	

- (注) 1. 教員調査の結果による。
2. 最もうまくいったと思われる単元で使用した教材について、選択肢からあてはまるものをすべて選んでもらう形式で尋ねた（複数選択）。
3. 複数選択であるため合計は100%ではない。

1.8. 参加型授業の効果

1.8.1. 参加型授業の効果

最もうまくいったと思われる単元の教育効果について、25 項目の質問について「0. 意図していなかったので判断できない」「1. 効果はなかった」「2. あまり効果はなかった」「3. どちらともいえない」「4. やや効果はあった」「5. 効果はあった」の選択肢のうち、あてはまるものを 1 つずつ選んでもらう形式で、教科主任に尋ねた（単一選択）。そのうち「1. 効果はなかった」から「5. 効果はあった」までを 5 段階のリッカート尺度とみなして回答を 1～5 点で得点化し、集計を行った。

また、国語科、数学科、外国語科については、上述の 25 項目に加え、各教科特有の効果について同様の形式で尋ねた。（例えば、国語科の「語い力」「文法力」など。）

その結果、「教科内容に対する知的好奇心」（ $M=4.13$, $SD=0.754$ ）、「自分の考えを言語で表現する力」（ $M=4.11$, $SD=0.759$ ）、「各教科で身につけた知識・技能を活用する力」（ $M=4.03$, $SD=0.768$ ）などの効果が上位であった。一方、「勤労観や職業観」（ $M=2.77$, $SD=0.92$ ）、「社会の一員としての市民性意識」（ $M=2.89$, $SD=0.994$ ）、「社会変化に対応できる柔軟性」（ $M=3.05$, $SD=0.839$ ）などの効果が下位であった。

因子分析の結果、これらの効果の実感は、「思考・表現力」「課題解決力」「教科基礎力」「教科応用力」「協働性」「主体性」「市民性」「入試・就職力」の 8 つに大きく分類できた。

教科別に見ると、分散分析の結果、教科による効果の違いは大きなものではなかった。（「思考・表現力」で $F(4,5910)=20.650$, $p<.001$, $\eta^2=0.014$ 、「課題解決力」で $F(4,5967)=0.799$, n.s., $\eta^2=0.001$ 、「教科基礎力」で $F(4,6264)=7.272$, $p<.001$, $\eta^2=0.005$ 、「教科応用力」で $F(4,5909)=43.279$, $p<.001$, $\eta^2=0.028$ 、「協働性」で $F(4,6714)=10.816$, $p<.001$, $\eta^2=0.006$ 、「主体性」で $F(4,6201)=20.172$, $p<.001$, $\eta^2=0.013$ 、「市民性」で $F(4,4131)=41.367$, $p<.001$, $\eta^2=0.039$ 、「入試・就職力」で $F(4,5026)=4.988$, $p<.01$, $\eta^2=0.004$ 。）

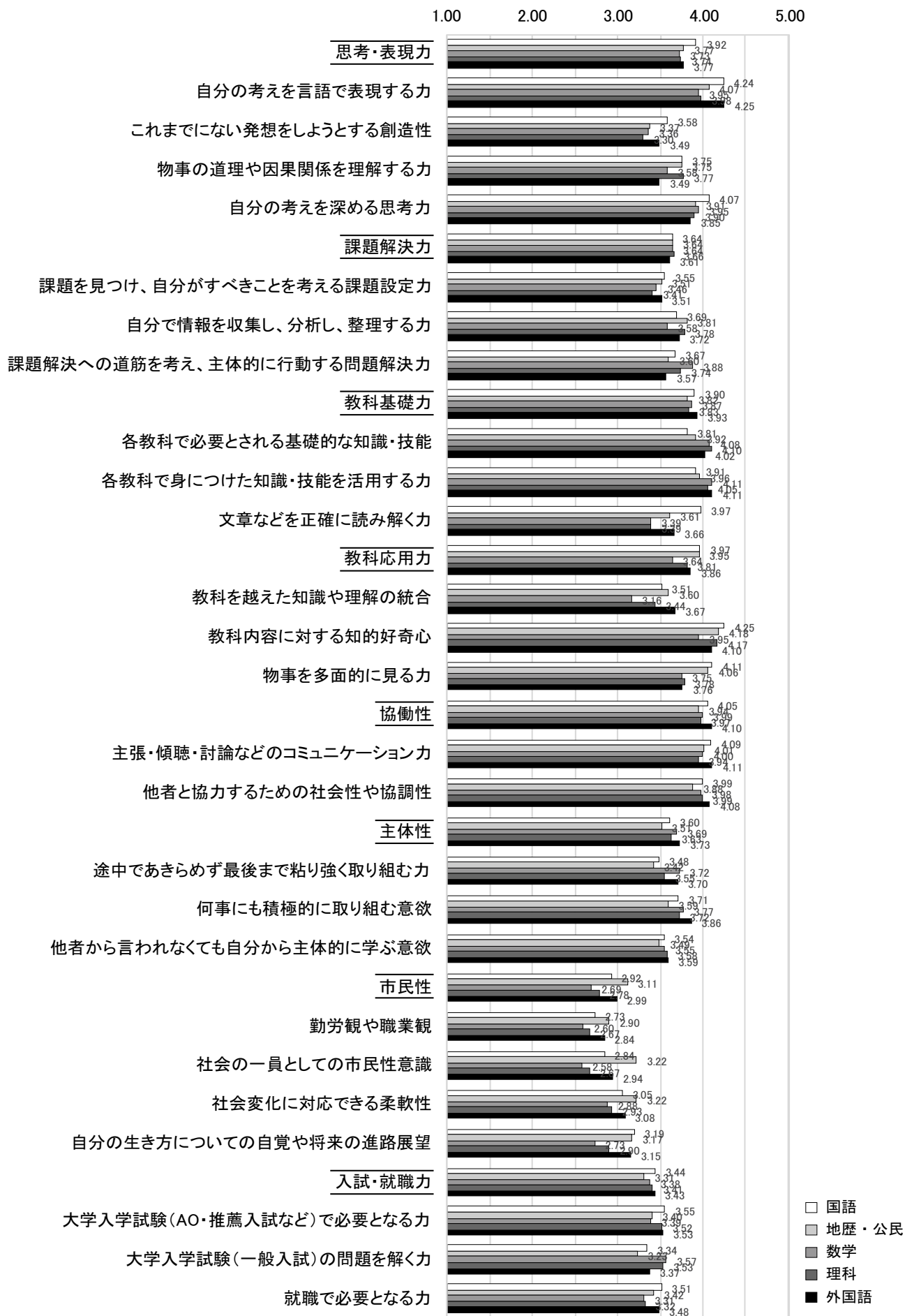


図6 最もうまくいった単元で実施された参加型授業の効果

表 27 最もうまくいった単元で実施された参加型授業の効果

項目	国語			地歴・公民			数学		
	度数	平均値	標準偏差	度数	平均値	標準偏差	度数	平均値	標準偏差
思考・表現力	1,276	3.92	0.558	1,260	3.77	0.606	1,044	3.73	0.594
自分の考えを言語で表現する力	1,542	4.24	0.692	1,415	4.07	0.741	1,218	3.95	0.804
これまでにない発想をしようとする創造性	1,368	3.58	0.938	1,292	3.37	0.927	1,128	3.36	0.921
物事の道理や因果関係を理解する力	1,419	3.75	0.782	1,380	3.75	0.805	1,177	3.58	0.834
自分の考えを深める思考力	1,519	4.07	0.678	1,404	3.91	0.764	1,257	3.95	0.719
課題解決力	1,270	3.64	0.751	1,259	3.64	0.717	1,057	3.64	0.714
課題を見つけ、自分がすべきことを考える課題設定力	1,358	3.55	0.924	1,291	3.51	0.908	1,104	3.46	0.941
自分で情報を収集し、分析し、整理する力	1,396	3.69	0.866	1,367	3.81	0.855	1,141	3.58	0.900
課題解決への道筋を考え、主体的に行動する問題解決力	1,395	3.67	0.869	1,332	3.60	0.832	1,234	3.88	0.768
教科基礎力	1,373	3.90	0.606	1,294	3.82	0.627	1,073	3.87	0.580
各教科で必要とされる基礎的な知識・技能	1,431	3.81	0.793	1,375	3.92	0.777	1,267	4.08	0.707
各教科で身につけた知識・技能を活用する力	1,439	3.91	0.792	1,385	3.96	0.797	1,280	4.11	0.704
文章などを正確に読み解く力	1,489	3.97	0.765	1,334	3.61	0.860	1,095	3.39	0.892
教科応用力	1,256	3.97	0.573	1,284	3.95	0.645	940	3.64	0.702
教科を越えた知識や理解の統合	1,279	3.51	0.910	1,296	3.60	0.921	959	3.16	1.025
教科内容に対する知的好奇心	1,508	4.25	0.679	1,415	4.18	0.742	1,266	3.95	0.809
物事を多面的に見る力	1,493	4.11	0.749	1,401	4.06	0.811	1,207	3.75	0.883
協働性	1,433	4.05	0.699	1,352	3.94	0.746	1,205	3.99	0.690
主張・傾聴・討論などのコミュニケーション力	1,495	4.09	0.744	1,388	4.01	0.783	1,233	4.00	0.752
他者と協力するための社会性や協調性	1,447	3.99	0.786	1,363	3.88	0.844	1,224	3.98	0.774
主体性	1,264	3.60	0.648	1,230	3.51	0.673	1,184	3.69	0.654
途中であきらめず最後まで粘り強く取り組む力	1,298	3.48	0.830	1,269	3.42	0.825	1,228	3.72	0.827
何事にも積極的に取り組む意欲	1,469	3.71	0.726	1,360	3.59	0.789	1,253	3.77	0.731
他者から言われなくても自分から主体的に学ぶ意欲	1,424	3.54	0.783	1,339	3.49	0.797	1,228	3.55	0.820
市民性	781	2.92	0.761	1,018	3.11	0.713	669	2.69	0.789
勤労観や職業観	858	2.73	0.933	1,064	2.90	0.891	722	2.60	0.921
社会の一員としての市民性意識	869	2.84	0.954	1,150	3.22	0.978	703	2.58	0.944
社会変化に対応できる柔軟性	971	3.05	0.829	1,179	3.22	0.808	790	2.88	0.866
自分の生き方についての自覚や将来の進路展望	991	3.19	0.927	1,125	3.17	0.854	733	2.73	0.902
入試・就職力	1,022	3.44	0.729	1,078	3.31	0.753	881	3.38	0.796
大学入学試験（AO・推薦入試など）で必要となる力	1,210	3.55	0.852	1,189	3.40	0.919	1,004	3.39	0.938
大学入学試験（一般入試）の問題を解く力	1,194	3.34	0.921	1,183	3.23	0.932	1,084	3.57	0.975
就職で必要となる力	1,140	3.51	0.807	1,156	3.42	0.855	948	3.31	0.878

続き

項目	理科			外国語			合計		
	度数	平均値	標準偏差	度数	平均値	標準偏差	度数	平均値	標準偏差
思考・表現力	1,126	3.74	0.599	1,209	3.77	0.625	5,915	3.79	0.600
自分の考えを言語で表現する力	1,332	3.98	0.775	1,503	4.25	0.742	7,010	4.11	0.759
これまででない発想をしようとする創造性	1,197	3.30	0.931	1,313	3.49	0.915	6,298	3.43	0.932
物事の道理や因果関係を理解する力	1,310	3.77	0.833	1,301	3.49	0.863	6,587	3.67	0.830
自分の考えを深める思考力	1,352	3.90	0.762	1,439	3.85	0.822	6,971	3.94	0.754
課題解決力	1,139	3.66	0.726	1,247	3.61	0.792	5,972	3.64	0.742
課題を見つけ、自分がすべきことを考える課題設定力	1,183	3.41	0.942	1,317	3.51	0.910	6,253	3.49	0.925
自分で情報を収集し、分析し、整理する力	1,270	3.78	0.841	1,357	3.72	0.923	6,531	3.72	0.880
課題解決への道筋を考え、主体的に行動する問題解決力	1,311	3.74	0.851	1,329	3.57	0.879	6,601	3.69	0.849
教科基礎力	1,162	3.83	0.586	1,367	3.93	0.626	6,269	3.87	0.608
各教科で必要とされる基礎的な知識・技能	1,366	4.10	0.728	1,482	4.02	0.750	6,921	3.98	0.760
各教科で身につけた知識・技能を活用する力	1,368	4.05	0.746	1,487	4.11	0.769	6,959	4.03	0.768
文章などを正確に読み解く力	1,193	3.39	0.902	1,406	3.66	0.879	6,517	3.63	0.884
教科応用力	1,131	3.81	0.640	1,303	3.86	0.708	5,914	3.86	0.663
教科を越えた知識や理解の統合	1,167	3.44	0.957	1,342	3.67	0.947	6,043	3.49	0.962
教科内容に対する知的好奇心	1,380	4.17	0.726	1,483	4.10	0.784	7,052	4.13	0.754
物事を多面的に見る力	1,311	3.78	0.828	1,401	3.76	0.919	6,813	3.90	0.853
協働性	1,299	3.97	0.710	1,430	4.10	0.682	6,719	4.01	0.708
主張・傾聴・討論などのコミュニケーション力	1,325	3.94	0.789	1,479	4.11	0.760	6,920	4.03	0.768
他者と協力するための社会性や協調性	1,333	3.99	0.776	1,448	4.08	0.778	6,815	3.99	0.795
主体性	1,200	3.63	0.672	1,328	3.73	0.664	6,206	3.63	0.666
途中であきらめず最後まで粘り強く取り組む力	1,248	3.55	0.865	1,370	3.70	0.824	6,413	3.58	0.842
何事にも積極的に取り組む意欲	1,346	3.72	0.746	1,467	3.86	0.743	6,895	3.73	0.752
他者から言われなくても自分から主体的に学ぶ意欲	1,325	3.58	0.832	1,424	3.59	0.797	6,740	3.55	0.806
市民性	745	2.78	0.768	923	2.99	0.735	4,136	2.92	0.764
勤労観や職業観	819	2.67	0.928	1,003	2.84	0.903	4,466	2.77	0.920
社会の一員としての市民性意識	800	2.67	0.984	1,029	2.94	0.971	4,551	2.89	0.994
社会変化に対応できる柔軟性	883	2.93	0.856	1,075	3.08	0.809	4,898	3.05	0.839
自分の生き方についての自覚や将来の進路展望	847	2.90	0.887	1,052	3.15	0.879	4,748	3.06	0.904
入試・就職力	938	3.41	0.733	1,112	3.43	0.780	5,031	3.39	0.759
大学入学試験（AO・推薦入試など）で必要となる力	1,109	3.52	0.870	1,253	3.53	0.894	5,765	3.48	0.896
大学入学試験（一般入試）の問題を解く力	1,162	3.53	0.913	1,256	3.37	0.925	5,879	3.40	0.941
就職で必要となる力	1,008	3.32	0.854	1,173	3.48	0.849	5,425	3.41	0.851

(注) 1. 教員調査の結果による。

2. 最もうまくいったと思われる単元の参加型学習の効果について、「0. 意図していなかったので判断できない」および「1. 効果はなかった」から「5. 効果はあった」までの選択肢から、あてはまるものを1つずつ選んでもらう形式で尋ねた（単一選択）。

1.8.2. 参加型授業の教科特有の効果

教科特有の効果として、国語科では「読解力」(M=4.06, SD=0.735)や「記述力・論述力」(M=3.89, SD=0.771)を、数学科では「知識・技能(基本事項・計算)の習得」(M=4.04, SD=0.709)や「解答方針を定める力」(M=3.91, SD=0.759)を、外国語科では「語い力・文法力」(M=4.02, SD=0.752)や「スピーキング力」(M=4.02, SD=0.858)を身につける上で効果があったと感じていた。

「その他」の自由回答を見ると、国語科・外国語科ともに、プレゼンテーション能力やコミュニケーション能力という回答が多かった。なお、国語科特有の回答としては、思考力、表現力、話す力、聞く力、自分で考える力などが挙げられ、外国語科特有の回答としては、批判的思考力、授業外で英語を活用する力などが挙げられた。

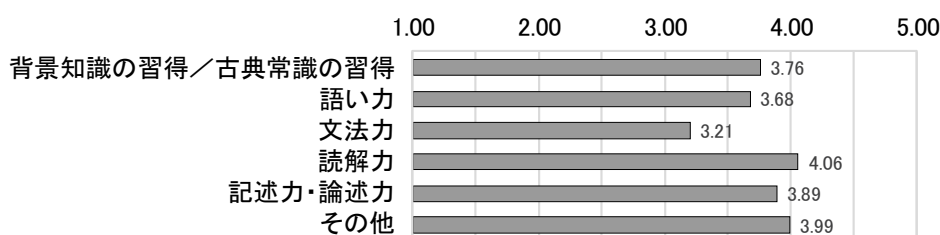


図7 最もうまくいった単元で実施された参加型授業の国語科特有の効果

表28 最もうまくいった単元で実施された参加型授業の国語科特有の効果

項目	度数	平均値	標準偏差	非該当	無回答 無効回答	合計
背景知識の習得／古典常識の習得	1,289	3.76	0.922	140	68	1,748
語い力	1,420	3.68	0.808	140	66	1,748
文法力	1,238	3.21	0.932	140	69	1,748
読解力	1,483	4.06	0.735	140	61	1,748
記述力・論述力	1,470	3.89	0.771	140	63	1,748
その他	184	3.99	0.899	140	1,251	1,748

続き

項目	効果は あった	やや効果は あった	どちらとも いえない	あまり効果 はなかった	効果は なかった	意図していな かったので判 断できない
背景知識の習得／古典常識の習得	264	589	326	82	28	251
語い力	184	705	433	85	13	122
文法力	107	312	606	155	58	301
読解力	392	826	232	23	10	64
記述力・論述力	284	806	319	52	9	75
その他	65	58	57	2	2	173

(注) 1. 教員調査の結果による。

2. 最もうまくいったと思われる単元の参加型学習の教科特有の効果について、「0. 意図していなかったため判断できない」および「1. 効果はなかった」から「5. 効果はあった」までの選択肢から、あてはまるものを1つずつ選んでもらう形式で尋ねた(単一選択)。



図8 最もうまくいった単元で実施された参加型授業の数学科特有の効果

表29 最もうまくいった単元で実施された参加型授業の数学科特有の効果

項目	度数	平均値	標準偏差	非該当	無回答 無効回答	合計
知識・技能(基本事項・計算)の習得	1,274	4.04	0.709	411	39	1,750
情報収集・選別力(問題文・図形・数学的表現から情報を読みとる力)	1,249	3.88	0.752	411	42	1,750
目標を見極める力・判断力(何が要求されているのか捉える力・構造理解する力)	1,254	3.78	0.779	411	40	1,750
解答方針を定める力(解法へのプランニング、次の一手の判断をする力)	1,255	3.91	0.759	411	38	1,750
解答方針を実行する力(方針の妥当性の評価、必要に応じた軌道修正、得られた結果の発展)	1,240	3.78	0.792	411	38	1,750
プレゼンテーション力(自分の考えを適切な言葉で表現できる力)	1,213	3.78	0.828	411	38	1,750

続き

項目	効果はあった	やや効果はあった	どちらともいえない	あまり効果はなかった	効果はなかった	意図していなかった ので判断できない
知識・技能(基本事項・計算)の習得	297	764	181	25	7	26
情報収集・選別力(問題文・図形・数学的表現から情報を読みとる力)	233	680	298	30	8	48
目標を見極める力・判断力(何が要求されているのか捉える力・構造理解する力)	213	607	388	39	7	45
解答方針を定める力(解法へのプランニング、次の一手の判断をする力)	260	667	285	40	3	46
解答方針を実行する力(方針の妥当性の評価、必要に応じた軌道修正、得られた結果の発展)	212	609	369	39	11	61
プレゼンテーション力(自分の考えを適切な言葉で表現できる力)	207	616	324	47	19	88

(注) 1. 教員調査の結果による。

2. 最もうまくいったと思われる単元の参加型学習の教科特有の効果について、「0. 意図していなかったため判断できない」および「1. 効果はなかった」から「5. 効果はあった」までの選択肢から、あてはまるものを1つずつ選んでもらう形式で尋ねた(単一選択)。

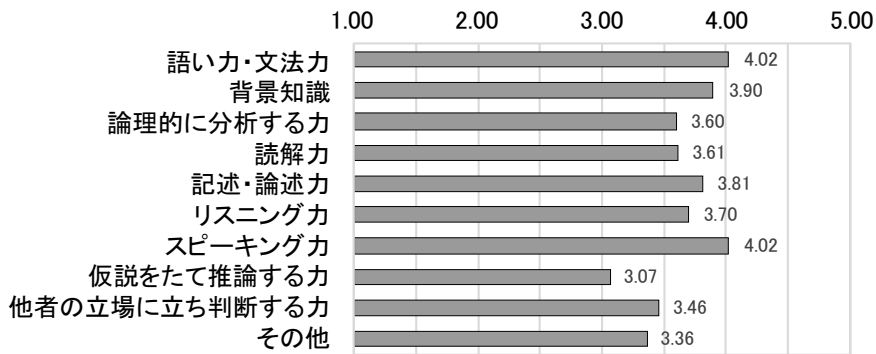


図9 最もうまくいった単元で実施された参加型授業の外国語科特有の効果

表30 最もうまくいった単元で実施された参加型授業の外国語科特有の効果

項目	度数	平均値	標準偏差	非該当	無回答 無効回答	合計
語い力・文法力	1,491	4.02	0.752	150	68	1,733
背景知識	1,400	3.90	0.896	150	66	1,733
論理的に分析する力	1,367	3.60	0.902	150	68	1,733
読解力	1,378	3.61	0.906	150	66	1,733
記述・論述力	1,411	3.81	0.887	150	66	1,733
リスニング力	1,347	3.70	0.900	150	67	1,733
スピーキング力	1,412	4.02	0.858	150	67	1,733
仮説をたて推論する力	1,089	3.07	0.896	150	72	1,733
他者の立場に立ち判断する力	1,211	3.46	0.925	150	69	1,733
その他	123	3.36	1.033	150	1,324	1,733

続き

項目	効果は あった	やや効果は あった	どちらとも いえない	あまり効果 はなかった	効果は なかった	意図していな かったので判 断できない
語い力・文法力	358	862	220	39	12	24
背景知識	369	616	340	49	26	117
論理的に分析する力	197	581	465	89	35	148
読解力	202	607	437	98	34	139
記述・論述力	296	673	350	63	29	106
リスニング力	235	615	391	74	32	169
スピーキング力	417	696	233	41	25	104
仮説をたて推論する力	64	218	603	137	67	422
他者の立場に立ち判断する力	151	428	508	78	46	303
その他	24	15	73	3	8	136

- (注) 1. 教員調査の結果による。
 2. 最もうまくいったと思われる単元の参加型学習の教科特有の効果について、「0. 意図していなかったため判断できない」および「1. 効果はなかった」から「5. 効果はあった」までの選択肢から、あてはまるものを1つずつ選んでもらう形式で尋ねた(単一選択)。

1.9. 学習成果を判断する際の根拠

参加型学習の効果を判断する際に、その判断材料としたものが何かについて尋ねた。その結果、最も多かったものは「生徒の学習態度」の 87.3%であり、「生徒の発言内容（発表内容）」83.1%、「提出物」60.3%と続いた。

「その他」の自由回答を見ると、すべての教科において、生徒自身の自己評価、授業アンケートという回答が多く見られた。なお、各教科において特に多かった回答としては、国語科では、振り返り（リフレクション）シート、ループリック、ポートフォリオなど、地歴・公民科では、振り返り（リフレクション）シート、授業中の生徒の言動や様子、日常生活での生徒の暮らしぶりの変化など、数学科では、振り返り（リフレクション）シートなど、理科では、振り返り（リフレクション）シート、授業中の生徒の言動や様子など、外国語科では、スピーキングテストやプレゼンテーション、GTEC・英検などの英語外部試験、ALT による評価、日常生活での生徒の暮らしぶりの変化などがあつた。

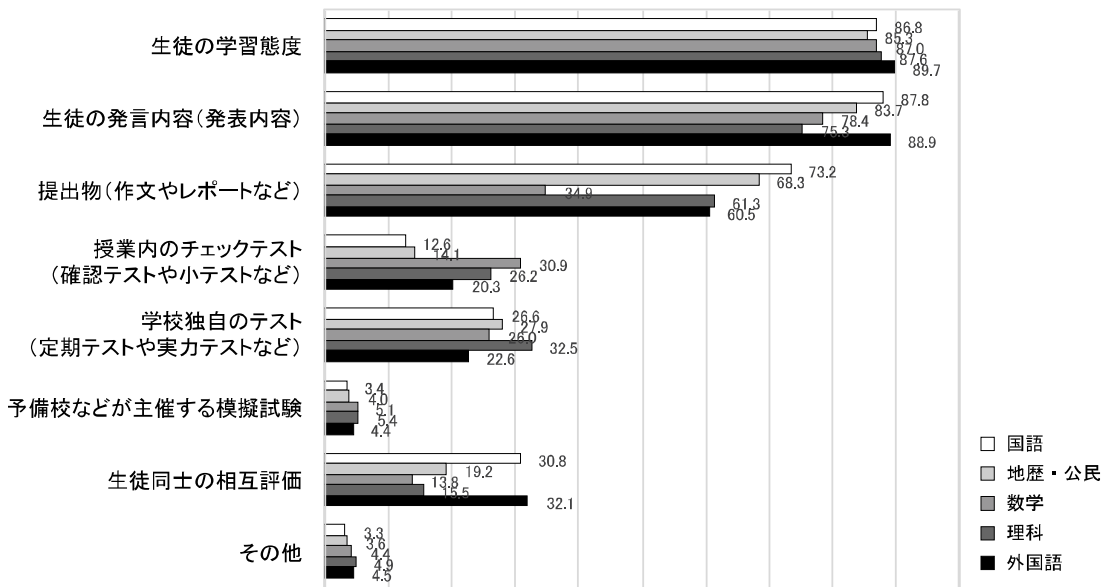


図 10 最もうまくいった単元の効果の判断材料

表 31 最もうまくいった単元の効果の判断材料

項目	国語		地歴・公民		数学		理科		外国語		合計	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
生徒の学習態度	1,346	86.8	1,201	85.3	1,135	87.0	1,239	87.6	1,362	89.7	6,283	87.3
生徒の発言内容（発表内容）	1,362	87.8	1,178	83.7	1,022	78.4	1,065	75.3	1,351	88.9	5,978	83.1
提出物（作文やレポートなど）	1,136	73.2	961	68.3	455	34.9	867	61.3	919	60.5	4,338	60.3
授業内のチェックテスト（確認テストや小テストなど）	195	12.6	199	14.1	403	30.9	371	26.2	309	20.3	1,477	20.5
学校独自のテスト（定期テストや実力テストなど）	412	26.6	393	27.9	339	26.0	460	32.5	344	22.6	1,948	27.1
予備校などが主催する模擬試験	53	3.4	56	4.0	67	5.1	77	5.4	67	4.4	320	4.4
生徒同士の相互評価	477	30.8	270	19.2	180	13.8	219	15.5	487	32.1	1,633	22.7
その他	51	3.3	51	3.6	57	4.4	69	4.9	69	4.5	297	4.1
有効回答数	1,551	100.0	1,408	100.0	1,304	100.0	1,415	100.0	1,519	100.0	7,197	100.0
無回答	57		76		35		48		64		280	
合計	1,608		1,484		1,339		1,463		1,583		7,477	

- (注) 1. 教員調査の結果による。
 2. 最もうまくいったと思われる単元の参加型学習の効果の判断材料について、あてはまるものをすべて選んでもらう形式で尋ねた（複数選択）。
 3. 複数選択であるため合計は 100%ではない。

2017年4月5日 発行

高等学校におけるアクティブラーニングの視点に立った
参加型授業に関する実態調査 2016
第二次報告書

編集・発行 東京大学 大学総合教育研究センター 中原淳研究室
〒113-0033 東京都文京区本郷 7-3-1